

船入瀬防波堤(石積防波堤)とは

- 「函館港改良工事」において、埋立により函館港内への航行が不便になる漁船係留を目的として船入瀬が築設され、西向きの外海からの波を防ぐ目的で船入瀬防波堤が建設されました。
- 船入瀬防波堤の建設は、明治30年(1897)に始まり、明治32年(1899)に竣工しました。
- 防波堤の建設には、コンクリートブロックが使用される等、北海道で最初の近代港湾施設と言えます。
- 防波堤は北側に104m、南側に54mが建設され、この内の北側約100m、南側約10mが現存しており、竣工から121年を迎える令和2年現在でも防波堤として機能している現役の港湾構造物で、学術的にも貴重な財産となっています。
- 平成16年には土木学会より、函館港改良施設群として選奨土木遺産に選定されました。
- 船入瀬防波堤は、今もなお現役として機能しつつある一方で、一部に欠損、崩落が生じていたことから、平成23年8月より修復工事に着手し、平成25年3月に完成しました。

修復前(北側先端部)



修復後(北側先端部)



修復前(南側先端部)



修復後(南側先端部)

